



No.96

さいばいニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町
城ヶ島養老子
☎046(882)6980
FAX046(881)2233

平成25年度 事業計画

マダイ・アワビ・ヒラメなどを種苗生産 東京湾・相模湾に放流し、資源維持増大を目指す 要望の強いヒラメなどの種苗は入手・放流へ

当協会は昭和六十一年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する」ことを目的に設立され、今年で二十七年目を迎えることとなりました。

ある種苗生産・放流並びに供給事業を行うことにより神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。そして栽培漁業と当協会の活動についての理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境



業界の要望が強いヒラメ種苗

益財団法人神奈川県栽培漁業協会となり従来の事業を継続し漁業者等と一体となって栽培漁業の推進に努めてまいります。今年度はマダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイ、カサゴ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。さらに業界の強い要望であるヒラメ種苗などの種苗を入手し放流します。これら当協会の中核事業で

の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。当協会の運営については、県補助金の削減及び漁業経営の不振と遊漁者数の減少等から主な収入源である漁業者負担金や遊漁船業者等協力金は減少傾向にあり、種苗供給数も不安定ながら関係団体等の協力をいただきマダイ種苗の増産を図ります。更に、施設は県から無

事業名	種苗名(サイズ)	25年度(計画)	24年度(実績)
種苗生産	アワビ(5mm)	30,000個	30,000個
	//(25mm)	300,000個	288,200個
	//(30mm)	70,000個	71,000個
	サザエ(20mm)	150,000個	136,145個
	トコブシ(15mm)	100,000尾	105,548個
	マダイ(70mm)	150,000尾	84,600尾
	クロダイ(60mm)	70,000尾	64,500尾
種苗供給	カサゴ(60mm)	10,000尾	8,250尾
	マコガレイ(40mm)	20,000尾	15,180尾
	ヒラメ(60mm)	150,000尾	149,273尾
	メバル(60mm)	40,000尾	37,500尾
	カサゴ(60mm)	120,000尾	119,500尾
	トラフグ(50mm)	21,650尾	21,650尾
	カワハギ(50mm)	11,000尾	11,000尾
	ナマコ(20mm)	16,000個	16,000個

また、昨年に引き続き「太平洋海域栽培漁業推進協議会」において、他県と連携し広域にヒラメ種苗放流事業を展開します。その一方、事業の執行については、徹底した経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。

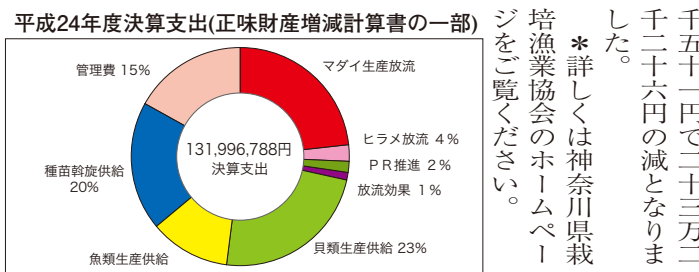
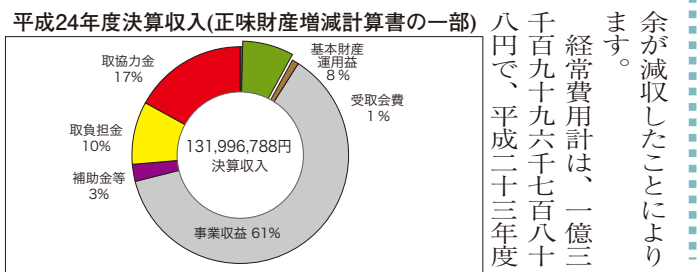
今年度は、公益財団法人相模湾水産振興事業団にマダイ等の種苗を購入して頂く数を増やすことで事業収益を八千七百四十六万三千円と前年度より三百五十一万六千円の増を見込んでいます。しかし、一方、受取負担金、受取協力金は年々

償貸与されていますが、施設の老朽化等により改修や取りかえが必要となっており、今年度から公益目的事業安定化基金の設置により、緊急時には実施費用として充てることにより事業の安定化を進めてまいります。

平成二十五年度の一般正味財産増減では、経常収益合計は、一億三千二百八十三万四千円です。平成二十四年度と比較して四百九十四万円の増を見込んでいます。

平成24年度決算 マダイ協力金など減収

平成二十四年度の正味財産増減計算書に基づき説明します。平成二十四年度の経常収益合計は、一億三千七百七十八万六千八百八円でした。平成二十三年度と比較すると三百四十七万六千二百三十三円減収となりました。主な要因として、種苗生産事業収益が百七十六万八千六百六円、マダイ協力金二百八十八万



経常外増減では、前年度基本財産から特定資産へ一億五千万円を移動し、什器備品除却損などがあつたため、前年度より

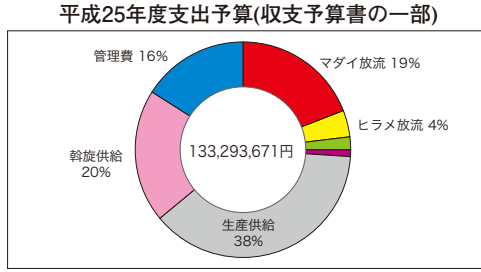
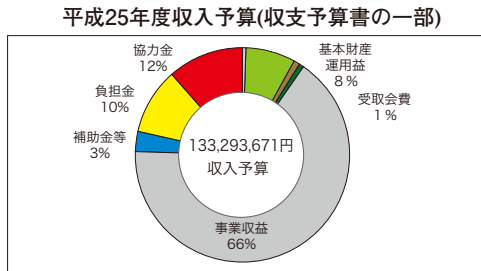
なお、一般社団法人日本釣用具工業会が二十万尾のマダイを放流する費用は当初予算には入っていません。

指定正味財産増減は変化なく、正味財産期末残高は平成二十四年度に七億五千四百六十二万五千五百円、平成二十三年度は七億五千四百三十三万八千五百一十一円、平成二十二年度は七億五千四百三十三万二千二百六十六円と減となりました。

少ずつ減少しています。経常費用計は、一億三千三百五十三万六千六百七十一円であり、前年度より三百六十九万四千四百五十九円増えています。これらから、当期経常増減額は七十万二千六百七十一円の減と見込んでいます。

指定正味財産増減では、正味財産期末残高を七億五千六百六十一万八千五百一十一円と見込み、前年度と比較して七十万二千六百七十一円の減と見込んでいます。

経常外費用計は六百十八万六千二百五十五円、前年度は六百六十一万八千五百一十一円であり、二十三年より二百六十六万六千六百七十一円の減と見込んでいます。



潮騒

漁業者の高齢化が進み、後継者が不足が深刻化している、そんな声がある。首都圏の中にある神奈川県は、陸上の仕事がいくらでもあり、漁業に就業する人が少ないのではないかとみられがちです。ところが、神奈川県水産技術センターの「新規漁業就業者調査」では、平成二十四年度までの五年間、毎年三十人以上が漁業に就業しており、「漁業に魅力を感じている人がいる」ことは確かであろう。神奈川県は過去五年間の新規漁業就業者数をみると、平成二十年度三十五、二十一年度三十、二十二年度三十三、二十三年度三十七、そして二十四年度は三十人でした。そして毎年度、年代別内訳はほぼ同じで、二十四年度は十代三、二十代十、三十代五、四十代以上十二人でした。他の職業からの転職組が多いようです。二十四年度に最も多く就業した漁業は定置網で十一人でした。この傾向は毎年度同じようです。真夜中に沖に出て仕事をすることをそれほど苦にしているのではないのでしょうか。いざいざにしてもこのように毎年三十人以上の新規就業者を受け入れていくわけですから、その収入を支えるためにも水産資源の維持増大は必要不可欠といえるでしょう。

一般社団法人 日本釣用品工業会



東京湾にマダイ種苗20万尾放流



放流船からマダイ種苗を海に

その事業として①清掃事業②放流事業③防波堤開放事業の三本柱を立ててその中の②放流事業として「調査型種苗放流事業」を位置づけ、今までマダイ種苗放流調査の実績

一般社団法人日本釣用品工業会は、同工業会が企画した「つり環境ビジョン」を実施するため、公益財団法人神奈川県栽培漁業協会とその事業を始める契約を結びました。一般社団法人日本釣用品工業会は、全国の釣具メーカーが加入している団体です。通称「日釣工」と呼ばれ、釣用品製造業の発展、内外関係団体との交流・協力や釣りを通じて国民生活の向上を図り、釣りの視点で環境保護、知的財産権の保全等を訴えている団体です。日釣工が新しく掲げた「つり環境ビジョン」は公益財団法人日本釣振興会と共に共同で実施する事業で、その内容は「地球から人間が享受できる自然の恩恵の永續、人々の活動が将来の発展に引き継ぐことを考える持続可能な社会」を目指し、より一層自然との共生を意識していかねばならない時代が到来しているとの考えから、左記の優先三事業を立ち上げました。

小田原 あじ・地魚まつり



大賑わい、あじ・地魚まつり

「小田原の市の魚」アジを中心とした地域の鮮魚・水産加工品への認識を高めてもらおうという「小田原あじ・地魚まつり」は五月十九日、小田原市水産市場で開催され

このほか、小田原の干物の「地魚販売コーナー」、定置網で漁獲して展示した巨大マンボウの解体・即売、神奈川県水産技術センター相模湾試験場の定置網模様の展示、一人一回五百円のアジすくいなど各種イベントが繰り広げられました。

水産総合研究センター増殖研究所 イセエビの生息数を増やすテストを実施



神奈川県水産課主要施策・予算説明会

「漁場育成事業費補助」などを行なう「水産業経営改善強化促進事業」に着手することになりました。この事業は県民に水産物を安定的に供給するため、水産資源を豊かにし、その担い手となる

また、「中核漁協基幹事業強化促進事業費補助」(上限額三千八百万円)の対象は、合併の中心となる漁協で基幹的

漁業者の要望の強い種苗を放流することで神奈川県下の海を豊かにしたい、そんな思いの水産関係団体は、今年度、各種の種苗を購入し、それぞれの適地に放流します。

二十五年度神奈川県水産課主要施策 種苗放流漁協を支援する 経営基盤強化事業に着手

神奈川県水産課は四月、開きましたが、二十五年度は新規に、漁協経営改善・強化のため水産種苗放流を行なう

この事業は二つに分かれ、「合併漁業経営改善促進事業費補助」(一漁協年間上限額千八百万円)

平成25年度水産関係団体種苗購入表

Table with columns: 団体名, 種類, マダイ, クロダイ, ヒラメ, カサゴ, カワハギ, トラフグ, アワビ, アワビ(30mm), ナマコ, マコガレイ

財団法人東京湾南部水産振興事業団はマダイ一万二千尾、クロダイ一万尾、カワハギ一万尾、ナマコ一万六千匹といった東京湾内の漁業者が望む種苗を放流します。

チリ共和国漁業次官一行が来所

アワビマダイ種苗生産資源管理に関心

今年三月、チリ共和国漁業次官一行が、漁業衛生管理部長、駐日チリ大使館農務参事官が加わって来所されました。一行には同国の漁業庁次官、漁業庁局長、漁業次官官房、マダイ種苗生産と資源管理について話を聞き、質問を繰り返しました。漁業次官からはチリ共和国からの研修生派遣受け入れについての質問がありました。



チリ次官一行がアワビ種苗生産施設を見学

今回、同次官一行は、わが国の水産庁、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会を敬称訪問した後、中央水産研究所、水産工学研究所、海外漁業協力財団を訪れ、東京・築地市場、千葉県・銚子漁港などを見学しました。日本の水産実情を視察するとともに、チリ共和国の養殖サケの日本への輸出促進を図ることを目的に来日しました。

施設などを見学しました。波板に付着しているアワビの稚貝や出荷直前まで育ったアワビを興味深げに見て、「アワビの種苗はどのくらい生産しているのですか」と質問していました。

なお、見学が終わったときに、ガリレオ漁業次官から、チリ共和国の漁業を紹介する綺麗な写真集を来所記念に頂きました。

三崎漁港の活性化を目指した体験型新事業

みうら漁協が海上釣り堀をオープン

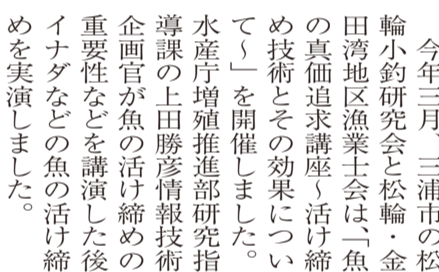


三崎新港に釣り堀オープン

みうら漁協は四月、三崎新港に海上釣り堀「みうら海王」をオープンしました。三崎漁港の活性化を目指した気軽に釣りが楽しめる体験型の新事業です。施設は、みうら漁協が神奈川

県の許可を得て十八メートル四方の釣り堀四つ、十四メートル四方の釣り堀二つを設置しました。釣り堀を運営しているのは、千葉県で実績がある東京ベイリゾートという会社です。

将来、漁業者が漁獲したアジやサバなどの釣りも楽しめる低価格で短時間の体験コースを設け、釣り上げた魚を調理して食べられる施設の整備も検討しています。



活け締め実演

今年三月、三浦市の松輪小釣研究会と松輪・金田湾地区漁業士会は、「魚の真価追求講座」活け締め技術とその効果について」を開催しました。水産庁増殖推進部研究指導課の上田勝彦情報技術企画官が魚の活け締めの重要性などを講演した後、イナダなどの魚の活け締めを実演しました。

魚の真価追求講座

水産庁・上田企画官が活け締め講習



サザエ種苗を海に蒔く

市場はマグロが有名で、外国の海で獲れたマグロはマイナス六十度Cの船の冷凍庫に保管され運ばれてくること、など三浦の漁業を説明しました。

この後、児童は三崎漁港に移動、三浦海業公社の水中観光船「にじいろさか

鈴木組が地域への貢献事業

三崎小学校の児童を対象に体験学習

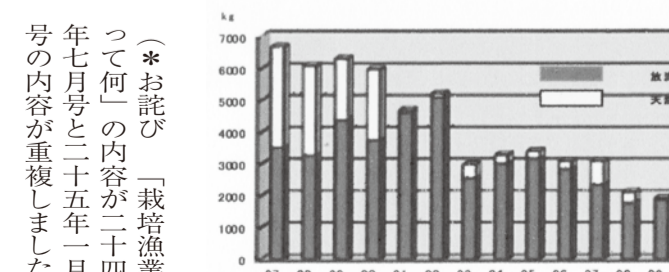
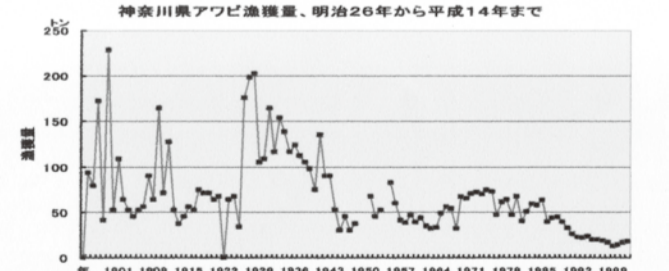
海洋土木工事の施工会社・鈴木組は、神奈川県三浦市立三崎小学校の三年生三十七名を対象に三崎漁港の土木工事、三浦の漁業、栽培漁業、サザエ種苗二千個の放流などの体験学習を実施しました。漁港建設工事に係る地域への貢献事業として行ないました。

同校の教室でみうら漁協の藤村尚参事が三崎魚市場はマグロが有名で、外国の海で獲れたマグロはマイナス六十度Cの船の冷凍庫に保管され運ばれてくること、など三浦の漁業を説明しました。

真鶴町に本社がある鈴木組は、海洋土木工事の施工、石材採取・販売を行っている会社です。神奈川県から三崎漁港・日ノ出2号岸壁の保全工事を受注したことを契機に、企業の責任を果たすための地域への貢献事業として体験学習を行ないました。

その平均体重が三百グラムとすると六万個が回収されたことになりました。このアワビは平成十三年から十四年にはそれぞれに四十万個が放流されていますので、十五パーセントが回収されたと思われま

アワビの種苗を放流しても漁獲量が増えない。本来、漁獲量を増加するために種苗放流をしているのに何か変であると皆さんも感じていることと思います。



（*お詫び）「栽培漁業って何」の内容が二十四年七月号と二十五年一月号の内容が重複しました

さいばい漁業って何 ⑭

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 今井 利 為

現行犯として、告訴する必要があります。が、カメラ、腕章、手帳・携帯電話などを監視活動の際には必帯です。

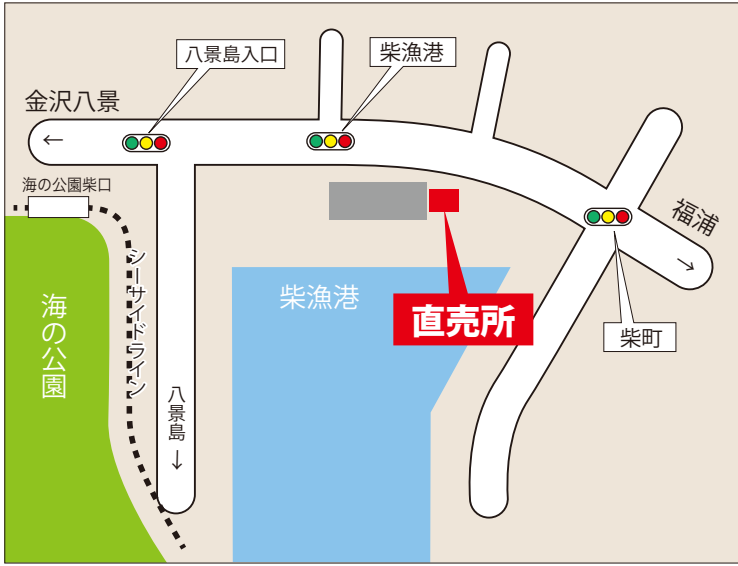
アワビ漁獲量の推移 左の図は明治二十六年（平成十四年）の百年間に神奈川県で漁獲されたアワビの量の推移です。この図で分かるように昔からアワビの漁獲量は豊凶の差が激しいものでした。関東大震災の後、二百トンを漁獲したこともありましたが、戦後は六十トン台でしたが、昭和六十年代から減少し、現在では二十トン前後です。

アワビは漁獲過剰になり易く、一旦、漁獲が減少すると資源が回復するまで長期の時間が必要で、戦前までは、漁獲の制限などの資源を管理することによって、再生産

を助長し、資源の回復が可能でした。しかし、近年の漁獲量が減少した原因は、漁獲過剰ではありません。

密漁対策 せっかくなお金を出して放流したアワビを密漁されてしまうほど、腹が立つことはありません。これは、空き巣に入られたと同然です。密漁にはそれを商売としている人間と遊びで獲る人がいます。プロの密漁者は夜間大量に漁獲して、遊びで獲る人間は獲る量が少量でも人数が多く、総量となるとばかにならない数値です。

密漁を防ぐためには、地元の人との連携を強化することと密漁に対する毅然たる対応が必要です。交番・警察の生活安全課との連絡体制を整えるとともに、密漁現場を如何に押さえるかが肝心です。



朝市・直販所めぐり シリーズ⑳

シャコやアナゴなど江戸前魚の販売が大人気

横浜市漁協・柴漁港名産直売所

かつて浅草海苔の産地として名前を知られていた小柴の海ですが、今は小型底引網漁船が漁獲するシャコで有名です。またこれに加えアゴやカレイなどの「江戸前の魚」を販売しているのが「柴漁港名産直売所」です。

シャコを主体とした資源を守るため、「二操一休」＝二日操業したら一日休むという操業方式を取り入れ、漁獲が少なくなれば操業を休むなど、資源管理を徹底した漁協として、全国的にも知られている漁協です。

毎週日曜日と祝日に漁船が出漁すると、午後一時三十分から四時まで、その日獲れた魚介類を販



シャコなど江戸前魚直売所

売するわけですから、その新鮮さは抜群ですし、「江戸前の魚」が生産者価格で買うことができることから、直販日には販売所の入口に長蛇の列ができます。

ただし、海が時化たりして漁船が出漁できないときは、直販所は営業できないそうです。問い合わせの電話を掛けてから来てほしい、と漁協では話しています。

【アクセス】徒歩だと、京浜急行金沢八景駅でシーサイドラインに乗り換え、海の公園駅下車、柴漁港に向かい徒歩5分です。

車だと、首都高速湾岸線の並木インターを出て直進して直ぐの幸浦二丁目交差点を右折、国道357を進み、金沢柴町を海の公園方面に右折して直ぐ、柴漁港信号を左折すると柴漁港です。

【所在地】横浜市金沢区柴町397、横浜市漁協柴支所隣り

【問い合わせ】045-785-6161

サントリービレッジサービスの協力で

栽培募金型自動販売機の設置開始



設置された栽培募金型自販機

前号でお知らせしましたが、日本ペプシコーラ販売株式会社(現在、サントリービレッジサービス株式会社)の協力を得て、栽培漁業を推進するための募金型自動販売機

の設置が始まりました。神奈川県下の漁業協同組合等の賛同をいただき、五月二十日現在、六カ所に設置されました。

同社と今年一月一日付で公益財団法人神奈川県

栽培漁業協会とで「自販機設置に伴う募金に関する契約書」を締結しました。設置した方々の協力により「お買い上げ料金の一部を放流事業に活用させていただきます」とうたっており、自販機にはマダイ、ヒラメ、カサゴの絵がデザインされています。

五月二十日現在、有限会社庄三郎、岩漁業協同組合、藤沢市漁業協同組合、堀川網鵜沼事業所、湘南平塚ビーチパークの六ヶ所の協力をいただき設置しました。

現在、数カ所の設置の交渉をしています。是非、条件が合えば、この募金型自販機の設置をお願いします。

リビエラリゾートシーボニアマリーナ

キスマスターの参加費の一部を協会に寄付



「キスマスター2013」を開催しました。表彰式で「海を豊にして」と参加費の一部約七万円を協会に寄付してくれました。

今回のキスマスターには、相模湾・東京湾のマリーナから五十九艇のヨット・モーターボート、七十二チームが参加し、キ

ス釣りを楽しみました。同社の渡邊藤郎副社長は「今年も神奈川県、三浦市の後援で盛大に開催でき、寄付に賛同していただいた皆さんに感謝します」と挨拶し、協会の今井利為専務は「寄付をしていただき感謝します。今後も水産資源の増大に力を入れますので協力をお願いします」とお礼を述べました。

同社は春に「キスマスター1」秋に「ハギマスター」を行い、参加者に寄付を呼び掛け、協会に寄付してくれています。

松輪・棒面丸

マダイ資源増大にと

十万円寄付



棒面丸から寄付

三浦市南下浦松輪の棒面丸は二月、「ブラブ！マダイ2012棒面丸」の表彰式を行い、参加費の一部、十万円をマダイ資源増大に役立てて下さい、と当協会に寄付してくれました。

釣り上げたマダイの大きさを競ったもので、優勝したのは昨年六月に六・四四キロのマダイを釣った東京都日野市の和田大地さんです。

受賞者代表の和田さんから寄付を受け取った協会の今井利為専務は、「棒面丸と釣人の皆さんの協力で毎年寄付をいただき感謝しています。今年も県下各地先の海に七十万尾のマダイ稚魚を放流します」とお礼の挨拶を行いました。棒面丸は、八年前からマダイ釣りイベントを実施し、これまでの寄付の合計は五十万円近くに達しています。

日釣振

長井地先にカサゴ種苗

五千尾放流



小さな子どももカサゴ稚魚放流に参加

日本釣振興会神奈川県支部は六月、当協会が生産した五千尾のカサゴ種苗を、横須賀市長井町地先の海に放流しました。

体長約七センチに育ったカサゴ種苗は、漁業者に協力してもらい四千尾を長井漁港沖に放流しました。

残りの千尾は荒崎海岸に運ばれ、地元地域の未来を考える会が行なった「荒崎海岸クリーンアップ」に参加した親子連れ百人が、小さなバケツに入れられたカサゴ稚魚を受け取ると、放流台を使い海に放流しました。

編集後記

今年四月下旬に行なわれた神奈川県水産課の平成二十五年度主要施策・当初予算説明会で、鶴飼俊行水産課長は、西湘のヒラメや東京湾のシャコ漁獲が近年では比較的多い、という明るい兆しを紹介しました。

ヒラメについては、種苗の放流に積極的に取り組み、しかも、漁獲体長制限を設け、小さな魚は水揚げしないという努力を重ねてきました。

シャコも、早くから二日操業すると一日休漁し、その上、少しでも漁獲が少なくなると獲らない、など血のにじむような資源管理を続けてきた結果といえるのではないのでしょうか。